



## スタッフ紹介

のせ きみよし  
**能瀬 公嘉**

生年月日  
S50.1.2

血液型  
A型

### 趣味

映画鑑賞、サッカー、御朱印集め  
好きな食べ物

焼き鳥、フライドチキン、玉子丼

### 休日の過ごし方

睡眠、スポーツ観戦、寺社仏閣巡り  
仕事への想い

人生の中で葬儀に参列することはあっても、大切な方を送ることは、そう何度もありません。悲しみと向き合い、故人様に感謝の想いを伝える大切な儀式です。

まだまだ未熟な部分がありますが、ご遺族の心に寄り添い、思い遣り、心に残るように皆様のお力になれるよう精一杯がんばっていきます。

## 新型コロナウイルス感染防止への対策と取り組み



マスクの着用にご協力ください



定期的な換気を実施しています



席と席の間隔を広く設けています



館内備品の消毒を徹底しています



館内各所に消毒液を設置しています



折詰のお持ち帰りギフトカタログでの対応



オンラインでの事前相談



オンラインでの葬儀の中継



毎朝スタッフの検温を実施し健康管理を徹底しています  
※発熱や体調不良時は出勤を停止しています



スタッフのマスクの着用を徹底しています



スタッフの手洗い、うがい、手指消毒を徹底しています



## あとがき

今年の夏は平年並みか平年より高い気温と予想されています。暑い時期に心配なのが熱中症です。屋外では暑さ対策に気を付ける方も多いのですが、室内でも条件によっては熱中症になる場合があります。注意が必要です。

- ① 室温と湿度に気をつける（温湿度計で目に見える形で確認する）
- ② エアコンや扇風機で室温を適度に保つ
- ③ こまめな水分補給と適度な塩分補給（のどが渇いていなくても）
- ④ 体の調子が悪い時は無理せず病院へ

皆さんも、暑さに気をつけて無理せず夏を乗り越えましょう。



出口秀美

お問い合わせ  
資料請求

フリーダイヤル  
**0120-44-5880**

365日24時間対応しております。

【通話無料】携帯電話でもつながります。

ドリーマーご自宅出張

お急ぎの方は  
電話にて  
対応いたします。無料事前相談実施中 !!

◆ドリーマーではご葬儀前に必ず全てのお見積もりをお客様に提示させていただきます。  
◆ご予算に合わない場合は、予算に合わせて内容の変更が可能です。  
◆後で想定外の費用が発生する事はございません。

ドリーマーの  
葬儀費用

## どうなる？ 暦年贈与！

令和3年度税制改正大綱が令和2年12月に発表されました。現在の制度では、富裕層による財産の分割贈与を通じた税負担回避を防止するには限界があります。諸外国にない贈与や相続による資産の移転タイミングにより税負担が変わらない課税制度を検討していくというものです。つまり、**暦年贈与**と制度が根本的に見直される可能性があるとして注目されています。今回はこのことを取り上げます。

### 1. 暦年贈与

- ① 贈与税の課税方法の1つで、毎年1月1日から12月31日までの1年間（暦年）の贈与額をもとに税額が決まるというものです。この時、1年間の贈与してもらった額が110万円以下なら、贈与税はかかりません（非課税枠）。
- ② 現状では、ある額の財産を死後に一括して相続するよりも、生前に複数回に分けて贈与したほうが、トータルで支払う税金を安くできます。また、贈与税には先ほど述べた110万円の非課税枠があります。相続税を節約するうえで、暦年贈与は有効な手段なのです。

### 2. 予想される改正内容

贈与税の課税方法は具体的にどう変わるのでしょうか。内容は未定ですが、例えば次のような改正が予想され、早ければ令和4年4月1日の贈与から適用される可能性があるといわれています。

#### ① 暦年課税の廃止

暦年贈与の非課税枠（110万円）や相続税との税率の違いが、資産移転のタイミングによる税負担の違いを生んでいるため廃止されるかもしれません。

#### ② 暦年課税の強化（有力説）

駆け込みの生前贈与による相続税回避を防ぐため、相続発生前の贈与について、現在は相続発生から3年以内の贈与が相続財産に加算されていますが、この3年という期間が、5年、10年、15年に延ばされるかもしれません。

### 3. 今すべき対策は？

今年度（令和3年度）中の暦年贈与を強くお勧めします。何らかの改正が行われる確率は高いと考えられています。暦年贈与で節税ができる最後のチャンスかもしれません。ご自身の相続財産を洗い出し、賢い相続・贈与の方法を検討しましょう。ご不明な点はぜひ一度専門家に相談してみてください。

JBAグループ

## 役に立つ葬儀の話 Vol.60

### 「おひとり様 終活」

超高齢社会や家族のあり方の変化にともない、高齢者の過半数が一人世帯または二人世帯です。2020年推計では、65歳以上のひとり暮らしは約703万人で、介護者がいないというケースもあり孤独死という事態も今後さらに増える予想されています。

孤独死のリスクは発見が遅れてしまう事です。「心筋梗塞」「循環器障害」「脳卒中」などの原因が多く、孤独死の大半は男性だそうです。近年、地域や近所付き合いが希薄な社会になった事も関係しますが、女性に比べて男性のほうがコミュニケーションを苦手とする方が多く、定年退職後は特に社会との接点が減っていく傾向にあります。「社会とのつながり」「自分の存在を知ってもらう」「見つけてもらえる」仕組みを作るには、「仕事」「ボランティア」「趣味」の場を積極的につくる必要があるそうです。

「見守り家電」などもありますが、おひとり様の老後サポートとして、自治体の「安否確認」「外出支援」等の高齢者支援サービス。訪問介護やデイサービス、民間サービスでの「見守り」や「宅配弁当」など、地域とのつながりを持つ方法も良いとされています。

自分らしく生きる、そして不安の無い老後生活を送る為には、元気なうちにしっかりと一人一人が自分にあわせた「終活」に取り組むことが必要ではないのでしょうか？



小番英之